



魚沼市立広神中学校

学校データ

【学級数】

8学級

【生徒数】

179人

【地域コーディネーター有無】 有

地域を知り、地域の人から学び、未来を考える教育プログラム

1 はじめに

本校は、魚沼市の JR 只見線、国道 252 号線沿線に位置する自然豊かな地域にある。旧広神村の 2 つの中学校が統合し、来年度に創立 50 周年を迎える。

人口減少・高齢化の進むこの地域にあって、自分たちが地域の大切な担い手であるという意識を高めていくことが重要である。そのために故郷の豊かな資源や地域の人との交流や協働体験を通し、地域を愛し、大切に思う心情を育てていきたい。

地域教育プログラムの実践を通して、生徒たちが地域を知り、地域の人から学び、より暮らしやすい地域づくりを自ら考え、発信していく機会をもたせていく。そして学習を通し、当事者としての意識を高め、地域の一員として、より良く生きようとする生徒の育成を目指す。

2 取組の実際

(1)「地域の魅力を知る」(1年)

①さつまいもづくりを通じた地域との協働体験活動

1年生は年々増えている耕作放棄地を活用し、さつまいも栽培を行っている。地域のコミュニティ協

議会、市のまちづくり支援員の協力を得て、栽培・収穫・干し芋づくりを行い、給食の材料も賄っている。地域の主要産業である農業や伝統的な保存食づくりを体験することで、地域の魅力を知る。また今年では中止になったが、秋の地域の祭りで焼き芋にし、来場者にふるまう。生徒たちは、地域の人喜んでくれることを張合いに感じている。



さつまいもの苗植え



干し芋づくり

②足立区竹の塚中学校との交流体験活動

1年生は市観光課と連携し、友好都市である足立区の「魚沼自然教室」で、竹の塚中と交流活動を行っている。(本年度は中止) 班員同士の事前事後に渡る交流を通し、多様な価値観に触れ、逆に魚沼のもつ魅力に気づくことができた。



体育館での交流

(2)「地域の人から学ぶ」(2年)

①職業講話

キャリア教育(特別活動)では、1年生は市商工課の「まちの仕事発見塾」に参加し、2年生は青年会議所に所属する3名の地元の若者から職業講話をお願いしている。講師の条件は、一度、地元を離れた経験をもつ人である。外部と連携を通し、地域の発展のためと挑戦している人。学ぶことで、生徒たちは刺激を受け、視野を広げる機会となった。



一度、魚沼を離れた経験をもつ先輩から学ぶ

(3)「地域を考える」(3年)

①中学生議会

3年生は、地方行政に関心を高めることを目的に、中学生議会に参加している。社会科公民分野「地方自治」と総合的な学習の時間「地域学習」とを横断し、協働活動を取り入れながら提言を練り上げた。「子どもから高齢者までが安心・安全で暮らしやすい魚沼市づくり」や「いきいきと活力のある魅力的な魚沼市づくり」について中学生の素直な視点から夢のある8つの提言にまとめた。当日は、市長・教育長に再質問や再々質問を返すやり取りが行われた。

事前学習を通し、市政への疑問や問題点を洗い出し、具体的な対応策を話し合い、正しく伝える表現を学んできた。

折しも市長選の時期と重なり、生

徒たちは、自分ごととして選挙の成り行きを見守った。そして3年後に主権者となる意識を高めた。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

3年間を通じて、関係機関と連携し、生徒が地域への関心を高める活動を進めてきた。竹の塚中との協働的な学びを通し、魚沼の良さを再発見し、職業講話では自分のもつ世界観を広げた。そして中学生議会後の記述には「市民の幸せのために議論を重ねている場所(議場)に立ち、自分の生活と直接つながっていることを実感した。」「社会科で学んだ地方自治について身近に感じる事ができた。」「これからも魚沼市を住みやすくするために働きかけていきたい。」という主体的な生き方を目指そうとする変容を読み取ることができた。

地域や行政の手厚い支援があり、職員の負担も軽減された。しかし、お膳立てされた活動である側面もあり、生徒主体の探求的な学びや課題解決能力の育成が十分に図られているか、今後の検証が必要である。

4 おわりに

今年度のコロナ禍により、他者と関われる機会が激減した。代わる新たな方法を検討し、資質・能力の育成に努めていきたい。